



走子走愛

(そうしそうあい)

「生命」
「笑顔」
「自立」

令和7年度 №.38
令和8年1月14日
【文責】小林信一

「熊本の心」優秀作文 おめでとう

2年生の工士涼平さんが「熊本の心」作文で県教育委員会賞を受賞しました。始業式の前に全校児童の前で朗読をしてもらいました。

「オトトケサボウ」を読んで

ぼくは、家族が大好きです。やさしいお母さんとお父さん、元気でかわいい弟と妹とくらす毎日が楽しいからです。

「オトトケサボウ」は、そんな家族がテーマのお話です。ぼくは、このお話を読んで、家族に食べ物やべんきょう道具をもらったらかんしゃしなければいけないということに気づきました。「オトトケサボウ」にとうじょうする兄さんも弟のケサボウにたいするかんしゃの気持ちをもっていれば、ケサボウが家出をすることはなかったと思います。

このお話では、ケサボウのやさしさ、思いやりに気づいた兄さんほととぎすが家出をした弟のケサボウをさがしにでかけます。お話はその場面でおわっていますが、ぼくはつづきをそぞうしてみました。きっと兄弟はもう一ど会えると思ひます。そして、ケサボウに会った兄さんほととぎすは、「おこってごめんね。ぼくのためにえさをさがしてくれてありがとうございます。これからは兄さんもいっしょにさがすからね。」と伝えると思います。

ぼくは、自分の生活をふりかえってみました。家族が料理を作ってくれた時は「いただきます。」と言っています。べんきょう道具をくれたときは「ありがとう。」と言っています。でも、もっとかんしゃの気持ちを伝えたいし、自分も家族の一人として、はたらきたいという気持ちが出てきました。

ぼくも大好きな家族の一いんになれるように、「家族からかんしゃされるようなことをたくさんしてみたいなあ。」と考えました。たとえば、さらあらいやゴミ出し、野さいの水やりや新聞はこびなどです。これをすると家族がよろこびます。家族がよろこんでくれると、ぼくもうれしくてあたたかい気持ちになります。「オトトケサボウ」を読んで、家族の大切さを考えるいい時間ができました。

涼平さんの感性の豊かさと表現力が素晴らしいと思いました。受賞おめでとうございます。

早朝挨拶運動 がありました

先日9日、本校正門にて早朝挨拶運動が前田教育長、園村青少協会長他、老人会や市役所の職員の方々が来校されて実施されました。

当日は外気温がマイナス3℃と冷え込みが厳しい朝でしたが、登校してくるみんなの元気な挨拶で、心も体も温かくなりました。やはり挨拶は人と人をつなぐ大切なコミュニケーションツールですから、これからも学校だけでなく、いろんなところで元気に挨拶を交わしてくれることを期待しています。



走りっこたち
元気に挨拶を交わす

あの日を忘れない

1995年1月17日5時46分に発生した最大震度7の揺れを計測した地震による一連の災害を「阪神・淡路大震災」と呼びます。今から31年前のことですが、当時大学3年生だった私は昨日のことのように覚えています。高速道路が崩れ、空港の建物も崩壊し、大きな火災が発生したその光景をテレビ越しで見ていました。「がんばろう KOBE」を合い言葉に、日本全国から支援が集まり、災害時の支援ボランティアが当たり前のようになったのもこの災害からだと記憶しています。(私の経験はいつかお話しします)

2011年3月11日に発生した「東日本大震災」、2016年4月14日、16日に発生した「熊本地震」と大きな災害を経験してきた私たちだからこそ、教訓を忘れず、日頃から防災に対する意識を高め、非常時の備えなど話題にしておきたいですね。